清流通信
Shimantogawa Monogatari
# 四万十川物語
第220章　通信日●2015年2月28日

<送信者>
公益財団法人
四万十川財団
TEL：0880-29-0200
FAX：0880-29-0201
office@shimanto.or.jp

## ジャンルを問わず、幡多での研究・探求を幡多で分かち合う、研究発表会はたのおと

幡多の記録を綴ったノート、幡多から発信される音と二つの意味をかけた「はたのおと」。

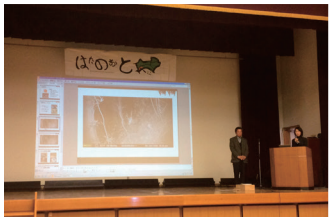
幡多とは、古くは波多之國、土左国播多郡の地、市町村合併後の幡多郡では少し分かりにくいので旧町村名で言うと大正～十和～江川崎を結ぶ四万十川の中流域から河口とさらにその南、足摺岬までの高知県西南部を指します。以前から首都圏からの時間距離が一番遠いところと言われ、今でこそ高知空港・松山空港ともに車で2~3時間ですが、鉄道やバスを乗り継ぐのでは今でもどれ程かかるかはたまたたどり着けないかという地域です。しかしだからこそ、四万十川は開発の手を遁れ最後まで清流であり続けられたとも言えるわけで、その環境を求めて調査研究にやってきた動植物や地域文化の研究者や、農林漁業、土木工事や小水力発電、観光、民話、遺跡など、地域の環境あってこその産業や文化に関わる人達・・・個性的で味わい深い人達が、濃い確率で産まれるのか、居るうちに濃くなっていくのか？この人達の、日頃の研究成果や幡多で生まれた試みの報告等を、年に一度発表する / 発表を聞く会が「はたのおと」です。2011年宿毛市に始まり、四万十市、黒潮町、土佐清水市を経て5年目となった今年は三原村で開催されました。

今年は、高知大大学院生の四万十川源流域の川底の生き物の話に始まり、星羅四万十の天文台、ニホンカワウソ（の実物大フィギュア）を造る話、三原村の森林組合の開発したばねなしくくりわな「いのしか御用」の紹介、高知県RDBの絶滅危惧種ヒメノボタンの群落を含む自然公園の活動報告、宿毛の蘭園の新しい「和蘭」開発、四万十川にかかる沈下橋の形状・・・など、口頭発表が９題、ポスター発表が７題。

ジャンルは問わず、幡多という地域での探求・研究はなんでも来いですから、よくも毎年新たな話題提供者がこれほどいるものだと驚かされます。内容以前にそんなジャンルの存在すら知らなかったようなことがあることを知り、その道、その業界（？）にとっぷり使った人の話の中身の濃いところを聞くわけです。裏面に５年分の発表タイトルを掲載します。タイトルだけで、想像もできない知らない生きもの、ちらちらとちりばめられたなじみのある地名や、関心のある話題、気になる活動の報告、あの話？このこと？と、考えはじめたらそれだけで結構な空の彼方へ連れ去られそうなリストです。誰もがきっと、ぜひこの話が聞きたい！これはあんなこんな話だったのかな？と思うような話題が見つかるのではないでしょうか。

この発表会を主催する、研究会はたのおと事務局代表、（以前にも清流通信にご登場いただいている）魚と山の空間生態研究所山下慎吾さんが第一回の案内に引用した井上ひさしの「むずかしいことをやさしく、やさしいことをふかく、ふかいことをおもしろく、おもしろいことをまじめに、まじめなことをゆかいに、ゆかいなことをいっそうゆかいに」という一文が、いつのまにかうまくしっかり浸透し、今や基本理念のようになっています。

これまで若くは高校生から８０を超える方までが発表されていますが、専門家が専門家同士で学会や論文とし



上段）ポスター発表・ロゴ　下段）舞台上での発表・発表者全員でQ&Aに答える・くろそん手帖大手帖石カケ編　右）エクスカーションで手作り魚道を見学

てその用語で語るのではなく、発表者は一般来場者にわかりやすいように、おもしろく伝えなければいけない。年齢性別仕事や生活文化住むところ、背景のまるで異なる一般来場者を対象に、わかりやすく伝えること。しかもその来場者に上から目線の質問 OK! と公言し、制限時間の容赦ないベルと質問か感想かツッコミやら知れぬ質疑応答にさらされる。発表者にとってこれは相当大変なことですが、発表者も他の発表ではどんな質問を投げかけてもよいわけです。この緊張感と自由さ！辛さと楽しさ！この渾然一体となったあたりこそが、知る事の喜び掘り下げることの大変さ、止められなさとも通じる、はたのおとの醍醐味なのではないかと思います。

さて、来年の開催は四万十町（旧大正地区）、懇親会の場で、町長が？町長に？電話をかけて、即決したそうです。ぜひぜひ楽しみに！または、発表の為にまた苦しみ、その混乱をもまた楽しみましょう！（多田さやか）

---

**2011　2.11　宿毛文教センター**

松田川河口に出現する稚魚／河川の蛇行部に形成される淵と魚類／海洋レジャーへの転換とその持続性／ルリヨシノボリの遺伝的多様性／地域の内発的発展における環境 NPO の役割／四万十川流域のアミカ科幼虫／カワウ・ウミウ 多の鳥たち／考古学からみた幡多／四万十の美味いもんすごいもん／柏島における藻場の変化／四国におけるサンゴの種苗生産／竜串のウミウシたち／幡多の流域、瀬淵の名前

**2012.2.11　四万十市中央公民館**

都会から地域へ：村おこし NPO でみえてきたこと／柏島に暮らす人達：島に移り住んで見たこと聞いたこと／子ども、文化、自然を通して社会を見つめる／四万十高校生と四万十の生き物／柏島の魚類相と黒潮の関係／宝石珊瑚漁で混獲される深い海の生き物たち／幡多の植物：高知県植物誌の調査をとおして ／幡多 民話の心 風土／海辺の日曜市からみえてきた小さな経済の重要性／しまんと RED＆四万十方式集客方法

**2013.2.2　黒潮町　大方あかつき館**

中山間地域における体験型観光施設の成功要因分析 - 四万十・川の駅カヌー館を事例として／文化的景観の受容に関する研究～高知県黒尊川流域を対象として～／地域祭礼の復興と青年団活動の現代的意義 - 不破八幡宮大祭の事例から -／自転車で巡ろう 奥四万十／宿毛湾における海洋修復技術実験結果について／スローでない田舎暮らし おむすび畑の 5 年／初めまして。アグリパークはたのうです／高知におけるウミシダ類の多様性 ／四万十川中流部におけるユビナガコウモリの人工洞利用状況 - すめばみやこ -（ポスター発表）黒潮町のテナガエビは，今／重要文化的景観からみたテナガエビ–黒尊川流域における出現状況／ヤドカリの魅力 ～柏島の海から～／四国西南海域のヒトデ相と稀産種の採集・観察記録／四国西南地域で新たに見つかったカワアイ（キバウミナ科）およびシオマネキ（スナガニ科）の生息地／幡多地域の和紙原料である楮について

**2014.2.1　土佐清水市立 三崎小学校**

学生キャンプから見えたもの～内と外それぞれの発見～／口屋内集落における文化的景観のハード整備について - インターンシップで学んだこと -／食の６次産業化プロデューサーというお仕事／国立公園を楽しもう！おすすめスポット／作業道づくり奮闘記／地域の資源ウバメガシを活かした産業づくり／瀬の名・淵の名／海中に眠る人々の生活の跡（ポスター発表）竜串海岸のいきもの調べました／四万十川流域におけるシチョウゲの分布と生態／三原村での小水力発電取組みについて／高知県四万十川周辺におけるユビナガコウモリの人工洞利用状況／土佐清水市竜串湾見残しの巨大シコロサンゴの産卵／四国西南海域のウニ相について／四国西南部の浅海産ウミシダ相と柏島周辺から得られた未記載種について／竜串における自然再生／久栄岸橋が語るもの／身近な川にはいってみると - 三崎川にいる魚やエビたち

**2015.1.24　三原村農業構造改善センター**

源流域における流程にそった底生生物の変化／リニューアルした天地の川をつなぐ天文台／動物造形ーニホンカワウソを作る／ばねなしくくりわな「いのしか御用」／ヒメノボタンの里づくり／幡多地域から始める新しい蘭の開発／四万十川流域における沈下橋の意味ー変化の連鎖／四万十川自然再生事業について／よそ者は「地域らしさ」に巡り合うのか？（ポスター発表）ヒナイシドジョウとは？ - 四国西南部にしかいない魚／生き物に名前をつける～”ウミシダ”を例に～宿毛湾地域における海岸生物の利用と生物方言／四万十高校周辺のカエルの生息状況について／知っていますか？足摺宇和海国立公園の魅力！～公園内の見所とサンゴ保全の取組～／くろそん手帖　石かけ編大手帖／小さな自然再生：流域の土と木で手づくり魚道